

2023年7月10日

学校法人三幸学園
福岡リゾート&スポーツ専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 酒井 正洋

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 仲谷 隆造 (一般社団法人ツールド・九州 参事大会ディレクター)
- ② 竹林 謙 (3SEED株式会社 ビジネスプロデューサー)
- ③ 大山 貴也 (TYDA GYM 2013年度卒業生)
- ④ 高瀬 岳彦 (福岡トータルワークアウト株式会社 マネージャー)
- ⑤ 谷川 雄基 (株式会社共立メンテナンス 九州支店 支店長)
- ⑥ 酒井 正洋 (株式会社 R-body コンディショニングコーチ)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月29日 (オンラインにて実施)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 福岡リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石川 好典・吉留 朝美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 酒井 正洋

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【教育理念・目標について】

対面での保護者会等が実施できなかったため、4月の入学時にオンデマンドコンテンツを作成し、保護者の方のタイミングで視聴いただけるツールを整備した。次年度は浸透をより図れるようにツールを活用していく。

【学校運営について】

学園として整備されている教務規定・クラス運営・授業づくりに関するマニュアルを教員間で3月・4月・9月に読み合わせを実施し、統一した指導を行った。

【教育活動】

資格取得に向けて主要資格に関連する教科担当者のミーティングを年に2回実施し、授業の進捗を確認し、連携しながら教育活動を行った。退学率5%以下を目標に今年度も施策を検討していく。

【学修成果】

学科担当制のシステムの強化をするために、常勤職員が関わる教科を分散させ、複数人で1クラスを見ることができるよう配置した。

【学生支援】

HRとキャリアの授業を持つ教員を複数人配置していることにより、1人の学生に対して2人以上の教員が関わり学生支援を行っている。

【教育環境】

各種業界団体様や企業様との取り組みを実施することが可能になったため、教育の型の確立を今年度は課題としている。

【学生の受け入れ募集】

昨年度と比べて好調であった。入学検討の段階で本校で勉強し卒業後の具体的なキャリアをイメージできる丁寧な募集活動を続けていく。

【社会貢献、地域貢献】

地域の行事ごとには積極的に参加をしており、地域の方との交流を増やしている。学内クラブの準備段階で委員の皆様にも完成度を見ていただきたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学生へ学校の理念・目的・育成人物像を共有する機会はあるものの、保護者様への周知の機会は入学時の「保護者説明会」時と限定されている。

② 今後の改善方策

保護者への定期的な発信文書を利用し、周知する機会を増やしていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

従業員に理念の浸透を図るために店舗ごとに月1回全職員が集まりミーティングの機会を作っている。クライアント様との交流も大切にしており、セッション以外でお客様が気軽に質問ができる機会として「コーヒータイム」というオンライン上のセミナーを実施している。医療との連携を特色にしているため、HP ではその特色を出した打ち出し方を行っている。満足度から次のお客様を紹介いただくという、紹介制での集客にメリットを感じているため、広告を使って集客することはしない方針(酒井委員)

保護者が安心を感じてもらえる特色をサービスに取り入れている。食事の提供や寮長・寮母が常駐しているという点は安心材料になっているようである。有事の際には電話・文書やショートメール等を使って保護者様への情報の提供を行っている。(谷川委員)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

Teams・学園のシステム・Classroom など様々な ICT ツールを使っはいるが、有効に機能しているとは言い難い。

② 今後の改善方策

Teams、掲示板である Sanko-Gate、Classroom の用途を明確にして活用

③ 特記事項

全教職員参加の全体会議はコロナ禍前に戻し、対面で実施した
学科会・教科会を同時に実施した

④ 学校関係者評価委員会コメント

会議や情報共有は、オンライン・オフライン両方もができる世情になってきたが、コロナ禍で便利になったことを過去に戻さないようにすることは意識している。オンライン・オフラインの実施判断としては「効率化できるか」「熱量とモチベーションが担保できるか」という視点で会議とツールの使い分けをしている。

企業カルチャーを確立させることを重要課題として取り組んでいる。メンバー間のコミュニケーションを活性化させるためや、上司・部下間のノンバイオレンスコミュニケーション(NBC)のトレーニングを管理職は必ず受けることを徹底している。独自でワークショップを行い、社内におけるコミュニケーショントレーニングが必要な場面を洗い出し、必要な研修をマッチングして実施している。

特に議題にオーナーを設置すること、オンライン MTG のはじめには今の自身の状態や気持ちを自己紹介に加えてチェックインすることが実例で有効であった。(竹林委員)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

産学連携によるインターンシップについては、これまでの長期的なインターンシップに加え、短期的なインターンシップの体系化を進めることが必要である。また、教員については専門性や保有資格に合わせた配置が重要であると考えている。

② 今後の改善方策

学生の状況に合わせた長期インターン、1DAY等の短期インターンの使い分け、2023年度より教員の専門性や保有資格から担当学科を絞った配置で運営をしている。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

ゼミ活動では明確にやってほしいことが決まっているケースと大会を1から一緒に作っていくというケースなどの複数の種類を産学連携として関わらせてもらっている。職員と同じレベルで情報を開示しており、その中で得た

情報から自分たちで出来ることを提案してもらい、学生たちがやり切れるレベルと企業が求めていることの落としどころを探して実施している。(仲谷委員)

自分が学生だった時、大学にトレーナー活動を実習として行かせていただいたことが今の仕事に生きている。知識を入れた後にどのようにアウトプットができるのかが非常に重要だと感じている。(大山委員)

退学率をさらに下げることが課題としており、入学前と入学後にギャップを感じている学生について早期に発見し対策が打てるように各種アンケートを活用している。(教務主任伊東さん)

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

学科担当制の構築は進んできたものの、退学率は目標数値に届いていない点を課題に感じている。
卒業生の活躍を知るためのシステムの構築と強化

② 今後の改善方策

学科担当、常勤職員が担当する教科、非常勤講師が担当する教科との連動
ハイパーQU(教育心理検査)など、クラス満足度・学校生活満足度検査の活用

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

卒業後に連絡が取りたくても連絡先を知らないという点がネックだった。Facebook や卒業生用の公式 LINE があるとのことなので積極的に利用していきたい。(大山委員)

今あるツールが卒業生まで届いていない点は学校として課題に感じている。今後同窓会に向けてさらに強化していきたい。(副校長吉留さん)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

学校側からの一方的な連絡だけでなく、保護者から連絡をしやすい関係の構築

② 今後の改善方策

2023年度より学生状況(出席率・単位修得)の文書を発送することで、現状保護者の方から連絡をいただける機会は増加している

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

寮への問い合わせも満遍なくというよりは特定の学生の保護者からの連絡に偏っている。

寮生が100名いたら2・3名の保護者様からの連絡があるという程度の割合である。対応した事項については記録を残しており、寮から保護者へ連絡するタイミングは午前中が多いが、夕方までの時間帯で行っている。(谷川委員)

学科担当制にて運営をしているため、学科担当内での情報共有をさらに活性化させ、複数人の教員で学生へ指導をしていきたい。(教務主任宮原さん)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

インターンシップ先の開拓

② 今後の改善方策

短期インターンシップの体系化から、インターンシップ先を新規に開拓
アルバイトとインターンシップの連動
スポーツボランティア等の依頼企業へのインターンシップのアプローチ

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

2022 度は採用、2023 年度はインターンシップの受け入れと学生向けのトレーナーからの講話を受け入れているが、トレーナーの仕事柄継続的な時間の拘束が現実として厳しい面もある。ただし講話等をきっかけに企業説明をする機会にもなり、学生にとっては現場のリアルな話を聞けるといったお互いに WIN-WIN の面も多く感じている。(高瀬委員)

昨年度竹林委員よりいただいた、「仕事に臨む姿勢は根性論でも良いが、職場環境は根性論ではなく整備する必要がある」というご意見を意識して教育環境を整備してきた。(副校長吉留さん)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

入学後、卒業後のキャリアイメージができる募集活動
適切な情報公開

② 今後の改善方策

多様な卒業後のキャリアの可視化と業界で活躍する卒業生の可視化
卒業生の直接的な案内

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

2022年度の募集活動は2021年度の募集活動の際よりプラスで入学をしてきてくれている。在校生や卒業生からの口コミで入学を決める高校生も多い状況があるため、高校生や保護者へ本校のことがより届くよう尽力していきたい。(教務主任佐藤さん)

昨年度は、オープンキャンパスで卒業生の体験授業が受けられる機会を増やしている(副校長吉留さん)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

コンプライアンス等の研修は今後も続けていく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

学校の教育資源や施設を活用しきれていない

② 今後の改善方策

複数学科で作り上げる「学内スポーツクラブ」の実施

③ 特記事項

2022 年度学内スポーツクラブを実施(プログラム申し込み 33 名 実参加者 26 名)

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

新型コロナウイルスへの対策が明けて通常の学校運営に戻つつあるが、全てを対策前に戻すのではなく今の学生たちにあったニューノーマルな教育を作っていくことが課題だと感じている。

また、新しい価値観を持っている学生たちに対して、卒業後には幅広い世代の方々が持っている多様な価値観を受け入れながら自身の力を発揮できるように、今回いただいた意見を基に整備をして実施していきたい。以上を受けて、職業意識の醸成を目的に、日々の授業・校外実習・行事の運営を目標としていく。(副校長吉留さん)